



河津町60年の歩み

昭和から平成へ、受け継がれる想い。

西暦	平成	主なできごと
1993	5年	東小学校体育館が完成。 町営温泉集中管理事業工事が始まる。 浜・笹原・田中・谷津地区、用途地域（都市計画）指定。 湯ヶ野湯坂が手づくり郷土賞「ふるさとの坂道」に選定される。 踊子歩道が手づくり郷土賞「街灯のある街角」に選定される。 伊豆南部の集中豪雨により町内各地で約42億円の被害。 温泉集中管理事業が約12億円で完成。 「県みずべ100選」に今井浜海岸と河津七滝が選ばれる。 温泉スタンド「ほっとステーション」オープン。 かわづ花の会設立。 踊り子温泉会館落成。開館1カ月で利用者1万6000人を超える。 サンシップ今井浜落成。
1992	4年	
1991	3年	
1990	2年	
1989	元年	
1988	63年	
1987	62年	
1986	61年	
1985	60年	
1984	59年	
1983	58年	
1982	57年	
1981	56年	
1980	55年	

西暦	昭和	主なできごと
1979	54年	新天城道路鍋失トンネル・高架橋開通。
1978	53年	伊豆大島近海地震発生（M7.0）。 「駅前プラザ」オープン。
1977	52年	初景橋のほとりに「伊豆の踊り子」の像完成。 新・館橋完成（総工費1億3200万円）。
1976	51年	湯ヶ野山に環境衛生センター（ごみ処理施設）建設（総工費2億1926万円）。 河津地震発生（M5.4）。 集中豪雨で町全域に被害（総雨量509ミリ）。
1975	50年	町の木「河津桜」、町の花「花菖蒲」制定。
1974	49年	伊豆半島沖地震発生（M6.9）。大堰浄水場完成。
1973	48年	林道長久保線、完成。「滝祭り」が始まる。
1972	47年	県営パイロット事業で見高入谷にみかん生産団地が完成。
1971	46年	農業構造改善事業で1億4000万円をかけカーネーション団地「花泉園」が完成。
1970	45年	河津八幡神社三番叟が町文化財に指定される。
1969	44年	県営パイロット事業開始（見高地区）。
1968	43年	河津町章制定。段間遺跡に新たに住居跡が発見される。
1967	42年	国道135号全線開通（総工費約37億7000万円）。
1966	41年	広報「かわづ」第1号発行。
1965	40年	「伊豆の踊子」の作者、川端康成氏を迎え湯ヶ野で「伊豆の踊子文学碑」除幕式が行われる。
1963	38年	田中に役場庁舎が落成。国民宿舎「かわづ」落成。
1961	36年	伊豆急行が開通。
1958	33年	昭和33年9月1日上河津村と下河津村が合併し、河津町が誕生。 人口1万454人、世帯数2054戸。 狩野川台風（9月）。





河津町60年の歩み

人と地域、みんなで創るまちの未来。

西暦	平成	主なできごと
1994	6年	国道414号に新峰山トンネルが開通。
1995	7年	環境庁調査で今井浜海岸がきれいな海全国ベスト7に選ばれる。
1996	8年	天皇皇后両陛下、天城視察のため来町される。 宗太郎杉と天城の森が「しずおか水を育む森50選」に選ばれる。
1997	9年	保健福祉防災センター完成。　デイサービス事業開始。 町のホームページ開設。
1998	10年	かわづ花菖蒲園オープン、入園者2万人を超える。　佐ヶ野川親水公園完成。
1999	11年	日本さくらの会「百万本植樹運動」で河津桜記念植樹式が行われる。 春ノ蔵公園整備事業着手。
2000	12年	「第10回河津桜まつり」に125万人が訪れる。伊豆を代表するイベントになり、しずおか観光大賞受賞。 鉢の山316万㎡を自然環境保全と活性化のため取得。
2001	13年	きれいな町づくり条例制定。 河津バガテル公園が開園。
2002	14年	天城山隧道(旧天城トンネル)が国の重要文化財に指定される。 エコフリンセンセンター東河稼働、ごみ分別収集開始。 パリ市と河津町が河津バガテル公園友好技術支援協定締結。 白馬村姉妹都市提携20周年・白馬村民来町。
2003	15年	役場新庁舎落成。 かわづカーネーション見本園オープン。 河津町立文化の家図書館開館。 町制施行45周年・河津桜生誕50年記念式典。
2004	16年	東京都渋谷区と災害時における相互応援に関する協定を締結。
2005	17年	河津桜原木を町指定天然記念物に指定。 第15回河津桜まつり、来遊者が7年連続100万人を超える。 パリ・バガテル公園100周年記念式典で河津バガテル公園の5周年記念花「クイーンバガテル」披露。
2006	18年	県市町村合併構想で南伊豆地区(下田市・賀茂郡)が合併構想の対象市町となる。 「町立さくら幼稚園」開園(3幼稚園統合)。
2007	19年	河津バガテル公園開園6年目で入園者数100万人を超える。 日帰り入浴施設・伊豆見高入谷高原温泉オープン。 地方自治法施行60周年記念で河津町が地方自治功労団体で表彰される。
2008	20年	河津桜まつり10年連続100万人イベント達成。 町制施行50周年。
2009	21年	新学校給食センター完成。 峰温泉大噴湯公園オープン。 国民文化祭しずおかにおいて「フランス民族舞踏と伊豆の伝統芸能の祭典」がバガテル公園で開催される。 市町村合併構想白紙となる。
2010	22年	河津桜観光交流館オープン。 放課後児童クラブ開設。
2011	23年	白馬村姉妹都市提携30周年事業開催。 田中バイパス「かわづいでゆ橋」開通。
2012	24年	「伊豆ならんだの里　河津平安の仏像展示館」オープン。 防災メール配信開始。 第1回河津寄って軽トラ市開催。
2013	25年	河津町新生総おどり「花こよみ」完成。 「広報かわづ」500号。
2014	26年	文化の家図書館「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣賞受賞。 河津七滝ジオパークビジターセンター開設。 見高浜に体験型観光施設「舟戸の番屋」オープン。 国民宿舎かわづ営業終了。 伊豆急河津駅発車メロディー「天城越え」採用。 第16回しずおか駅伝町の部6位入賞。人口1万人未満の部初代「ふるさと賞」受賞。
2015	27年	町第2次温泉給湯事業開始。 かわづカーネーション見本園入園者20万人達成。 第1回河津フラワートライアスロン大会開催。
2016	28年	伊豆縦貫自動車道の天城峠ルート帯決定。
2017	29年	「静岡水わさびの伝統栽培」世界農業遺産認定。 伊豆半島が、ユネスコ世界ジオパークに認定。 町制施行60周年。
2018	30年	



健康

HEALTH



手厚くカバーします



高齢者いきいきセンターで開かれている「介護予防教室」

さまざまなソフト事業の充実で
健やかな生活を送れる町に

河津町では、町民自身が健康な暮らしへの意識を高めていけるよう、さまざまな活動を展開しています。子どもから高齢者まで、それぞれの特性や課題に合わせた検診や健康教室などの取り組みを実施。特定健診や母子保健事業などさまざまな事業の充実によって、子どもから高齢者まで、町民全体が健やかな生活を送れる町を目指しています。

大切なのは、未来を担う子どもから高齢者までを幅広く、そして手厚くカバーできる医療・福祉体制の充実です。年齢や経済的理由などにより享受できるサービスが制限されたり、また差がついたりすることのないよう、皆が等しく適切な医療・福祉を受けられる地域医療福祉体制の確立を進めています。特に医療体制については、静岡県地域医療構想により、地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を適切に推進します。



保育園での虫歯予防教室

町民全体の健康づくりを

保健福祉センターで行われる集団予防接種



まちの保健・福祉行政を担う河津町保健福祉センター

高齢者の生活不安を解消し
「健康寿命」の延伸を進める

河津町では、明るい生活づくりを支援するための取り組みが盛んに行われており、老若男女の幅広い町民がそれぞれに健康づくりを楽しむ姿を日常的に目にすることができます。

また、生まれ育った土地で、健康に過ごす時期を一日でも長くする「健康寿命」の延伸を進めています。一方、町の将来を担う子どもたちを、より恵まれた環境で育てていくためには、地域全体によるサポートが欠かせません。

子育ての面では、子ども子育て会議による「子ども子育て支援計画」の立案などで積極的な検討を継続し、子育て施設の将来計画についての取り組みを進めていきます。

町では子育てに関する相談や情報を共有する体制を整備・充実し、育児に対する不安を解消し、家族が自信をもって育児ができるよう、保育施設とその機能の拡充を図るなど、ソフトとハードの両面から子育て世代を全面的にバックアップしていきます。



文化の家図書館で開催されている「おはなし会」

教育

EDUCATION

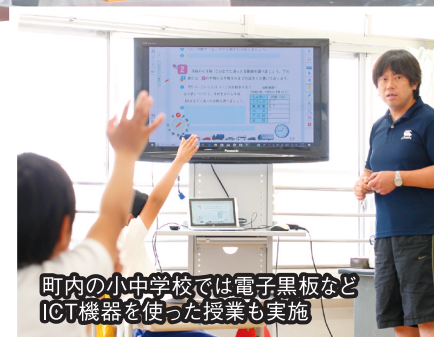


南小での授業の様子

B&G体育館で行われている太極拳教室

豊かな心身の育みを

目指します



町内の小中学校では電子黒板などICT機器を使った授業も実施



さくら幼稚園の園児たち

町では活発な世代間交流を支援し、河津町民としての誇りを育むことに努力しつつ、国際交流の舞台で自立できる人材を育成するため、ALT（外国語指導助手）の積極導入など、国際社会で活躍するための基礎づくりも進めていきます。



すべての小中学校にALTを配置

一方、地域社会の変化により、こうした文化を次代に伝え、異世代との活発な交流から生まれる学習機会は年々減少しています。

また、不登校やいじめなど、近年クローズアップされている学校内での問題に関しても、学校と家庭、地域などが一体となって取り組み、子どもたちが家庭や地域に見守られながら健全に育つ環境を目指します。

幼少期から小・中学校時代は人間形成の基礎が養われる大切な時期です。教育には成長段階や教育ステップごとにそれぞれ重要な役割があり、それらを一貫する基本理念が重要です。

町では、「豊かな心身の育み」を基本理念とし、平成27年度に、河津町教育大綱を定めました。

また、平成30年3月には、小学校のあり方などを検討する「学校教育環境整備委員会」がスタートしました。児童数が減少することなどを踏まえ、今後の学校などのあり方について検討を進めていきます。

さらに河津町では、すべての町民の文化・スポーツの推進を図り生涯学習の場を提供するとともに、学びの喜びを感じ取ってもらうことを基本目標としています。町の歴史に育まれた文化を守り、次代に引き継ぐことで町民としての誇りを育成し、河津町民としての意識形成を促しています。

町が目指す「豊かな心身の育み」とは、豊かな心を育む環境づくりを進め、共に学び、考える力を育てることが目的です。こうした方針のもと、町内の各学校では学校ごとに特色のある学校教育方針や指導指針を定め、伸びやかな児童生徒たちの育成を目指しています。

すべての町民に生涯学習の環境を

子どもたちの学習環境の整備は町の未来を見据えた重要な柱

次代の担い手である子どもたちの学習環境整備は、町の将来を見据えた重要な柱のひとつです。幼児教育、小・中学校教育の環境整備と拡充はもちろん、学校教育では教職員の資質向上への取り組みや、高度情報化社会に適応したネットワーク学習設備の充実などを積極的に進めています。

また、不登校やいじめなど、近年クローズアップされている学校内での問題に関しても、学校と家庭、地域などが一体となって取り組み、子どもたちが家庭や地域に見守られながら健全に育つ環境を目指します。

幼少期から小・中学校時代は人間形成の基礎が養われる大切な時期です。教育には成長段階や教育ステップごとにそれぞれ重要な役割があり、それらを一貫する基本理念が重要です。

町では、「豊かな心身の育み」を基本理念とし、平成27年度に、河津町教育大綱を定めました。

また、平成30年3月には、小学校のあり方などを検討する「学校教育環境整備委員会」がスタートしました。児童数が減少することなどを踏まえ、今後の学校などのあり方について検討を進めていきます。

さらに河津町では、すべての町民の文化・スポーツの推進を図り生涯学習の場を提供するとともに、学びの喜びを感じ取ってもらうことを基本目標としています。町の歴史に育まれた文化を守り、次代に引き継ぐことで町民としての誇りを育成し、河津町民としての意識形成を促しています。

町が目指す「豊かな心身の育み」とは、豊かな心を育む環境づくりを進め、共に学び、考える力を育てることが目的です。こうした方針のもと、町内の各学校では学校ごとに特色のある学校教育方針や指導指針を定め、伸びやかな児童生徒たちの育成を目指しています。

すべての町民に生涯学習の環境を

子どもたちの学習環境の整備は町の未来を見据えた重要な柱

次代の担い手である子どもたちの学習環境整備は、町の将来を見据えた重要な柱のひとつです。幼児教育、小・中学校教育の環境整備と拡充はもちろん、学校教育では教職員の資質向上への取り組みや、高度情報化社会に適応したネットワーク学習設備の充実などを積極的に進めています。

また、不登校やいじめなど、近年クローズアップされている学校内での問題に関しても、学校と家庭、地域などが一体となって取り組み、子どもたちが家庭や地域に見守られながら健全に育つ環境を目指します。

幼少期から小・中学校時代は人間形成の基礎が養われる大切な時期です。教育には成長段階や教育ステップごとにそれぞれ重要な役割があり、それらを一貫する基本理念が重要です。

町では、「豊かな心身の育み」を基本理念とし、平成27年度に、河津町教育大綱を定めました。

また、平成30年3月には、小学校のあり方などを検討する「学校教育環境整備委員会」がスタートしました。児童数が減少することなどを踏まえ、今後の学校などのあり方について検討を進めていきます。

さらに河津町では、すべての町民の文化・スポーツの推進を図り生涯学習の場を提供するとともに、学びの喜びを感じ取ってもらうことを基本目標としています。町の歴史に育まれた文化を守り、次代に引き継ぐことで町民としての誇りを育成し、河津町民としての意識形成を促しています。

町が目指す「豊かな心身の育み」とは、豊かな心を育む環境づくりを進め、共に学び、考える力を育てることが目的です。こうした方針のもと、町内の各学校では学校ごとに特色のある学校教育方針や指導指針を定め、伸びやかな児童生徒たちの育成を目指しています。

すべての町民に生涯学習の環境を

子どもたちの学習環境の整備は町の未来を見据えた重要な柱

次代の担い手である子どもたちの学習環境整備は、町の将来を見据えた重要な柱のひとつです。幼児教育、小・中学校教育の環境整備と拡充はもちろん、学校教育では教職員の資質向上への取り組みや、高度情報化社会に適応したネットワーク学習設備の充実などを積極的に進めています。

また、不登校やいじめなど、近年クローズアップされている学校内での問題に関しても、学校と家庭、地域などが一体となって取り組み、子どもたちが家庭や地域に見守られながら健全に育つ環境を目指します。

幼少期から小・中学校時代は人間形成の基礎が養われる大切な時期です。教育には成長段階や教育ステップごとにそれぞれ重要な役割があり、それらを一貫する基本理念が重要です。

町では、「豊かな心身の育み」を基本理念とし、平成27年度に、河津町教育大綱を定めました。

また、平成30年3月には、小学校のあり方などを検討する「学校教育環境整備委員会」がスタートしました。児童数が減少することなどを踏まえ、今後の学校などのあり方について検討を進めていきます。

さらに河津町では、すべての町民の文化・スポーツの推進を図り生涯学習の場を提供するとともに、学びの喜びを感じ取ってもらうことを基本目標としています。町の歴史に育まれた文化を守り、次代に引き継ぐことで町民としての誇りを育成し、河津町民としての意識形成を促しています。

町が目指す「豊かな心身の育み」とは、豊かな心を育む環境づくりを進め、共に学び、考える力を育てることが目的です。こうした方針のもと、町内の各学校では学校ごとに特色のある学校教育方針や指導指針を定め、伸びやかな児童生徒たちの育成を目指しています。

すべての町民に生涯学習の環境を

子どもたちの学習環境の整備は町の未来を見据えた重要な柱

次代の担い手である子どもたちの学習環境整備は、町の将来を見据えた重要な柱のひとつです。幼児教育、小・中学校教育の環境整備と拡充はもちろん、学校教育では教職員の資質向上への取り組みや、高度情報化社会に適応したネットワーク学習設備の充実などを積極的に進めています。

また、不登校やいじめなど、近年クローズアップされている学校内での問題に関しても、学校と家庭、地域などが一体となって取り組み、子どもたちが家庭や地域に見守られながら健全に育つ環境を目指します。

幼少期から小・中学校時代は人間形成の基礎が養われる大切な時期です。教育には成長段階や教育ステップごとにそれぞれ重要な役割があり、それらを一貫する基本理念が重要です。

町では、「豊かな心身の育み」を基本理念とし、平成27年度に、河津町教育大綱を定めました。

また、平成30年3月には、小学校のあり方などを検討する「学校教育環境整備委員会」がスタートしました。児童数が減少することなどを踏まえ、今後の学校などのあり方について検討を進めていきます。

さらに河津町では、すべての町民の文化・スポーツの推進を図り生涯学習の場を提供するとともに、学びの喜びを感じ取ってもらうことを基本目標としています。町の歴史に育まれた文化を守り、次代に引き継ぐことで町民としての誇りを育成し、河津町民としての意識形成を促しています。

町が目指す「豊かな心身の育み」とは、豊かな心を育む環境づくりを進め、共に学び、考える力を育てることが目的です。こうした方針のもと、町内の各学校では学校ごとに特色のある学校教育方針や指導指針を定め、伸びやかな児童生徒たちの育成を目指しています。

すべての町民に生涯学習の環境を

子どもたちの学習環境の整備は町の未来を見据えた重要な柱

次代の担い手である子どもたちの学習環境整備は、町の将来を見据えた重要な柱のひとつです。幼児教育、小・中学校教育の環境整備と拡充はもちろん、学校教育では教職員の資質向上への取り組みや、高度情報化社会に適応したネットワーク学習設備の充実などを積極的に進めています。

また、不登校やいじめなど、近年クローズアップされている学校内での問題に関しても、学校と家庭、地域などが一体となって取り組み、子どもたちが家庭や地域に見守られながら健全に育つ環境を目指します。

幼少期から小・中学校時代は人間形成の基礎が養われる大切な時期です。教育には成長段階や教育ステップごとにそれぞれ重要な役割があり、それらを一貫する基本理念が重要です。

町では、「豊かな心身の育み」を基本理念とし、平成27年度に、河津町教育大綱を定めました。

また、平成30年3月には、小学校のあり方などを検討する「学校教育環境整備委員会」がスタートしました。児童数が減少することなどを踏まえ、今後の学校などのあり方について検討を進めていきます。

さらに河津町では、すべての町民の文化・スポーツの推進を図り生涯学習の場を提供するとともに、学びの喜びを感じ取ってもらうことを基本目標としています。町の歴史に育まれた文化を守り、次代に引き継ぐことで町民としての誇りを育成し、河津町民としての意識形成を促しています。

町が目指す「豊かな心身の育み」とは、豊かな心を育む環境づくりを進め、共に学び、考える力を育てることが目的です。こうした方針のもと、町内の各学校では学校ごとに特色のある学校教育方針や指導指針を定め、伸びやかな児童生徒たちの育成を目指しています。

すべての町民に生涯学習の環境を

子どもたちの学習環境の整備は町の未来を見据えた重要な柱



河津中の生徒によるカーネーション園での引き抜き体験



「河津桜まつり」でのにぎわい

特産品を
いろんな商品へと
展開した
「河津ブランド」が
いっぱい！

河津桜に、
わさびや
みかんなど
自然の恵みに
感謝！

地域資源に「多彩なアイデア」を加え

平成28年度に始まった河津フラワートライアスロン大会では新たな集客にも期待するなど、河津を愛する人たちの思いや願いが集まり、まちの産業に新たな風を吹かせているのです。



河津の名物の一つ「河津寄って軽トラ市」



河津桜のお酒/かわづの春

また、谷津漁港で開催されている朝市や、河津町産業経済活性化連絡協議会による「河津寄って軽トラ市」なども人気を博しています。さらに、地元の農産物・海産物などを活用した新たなメニュー開発なども注目の取り組みです。

豊富な地域資源を活かした特産品は、河津町の「ふるさと納税制度」の返礼品としても活用されています。

ふるさと納税は、「ふるさとに貢献したい」という寄附者の思いを、居住地以外の地方公共団体へ「寄附」という形で寄せてもらう制度。寄附をいただいた返礼品には、河津町ならではの山や海の幸をはじめとした品々が多く用意されており、町の特産品を全国に発信しています。

河津を愛する人たちの思いが 新たな風を吹かせます

特産品を創出



河津産わさび



河津泣きめし

平成30年4月、伊豆半島ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定されました。こうした多彩な地形が織りなす豊かな環境は、地元の農林水産業を支えるよりどころとなっています。

河津町は伊豆の豊かな山や海の幸に恵まれた、たくさんの味覚にあふれた特産品が人気を集めています。

例えば、「生わさび」からは元祖「わさび井」をはじめ、スイーツなどが創り出され、また「河津わさびで泣かせ隊」によるグルメ企画も好評で、バリエーションに富んだユニークな商品が続々と生まれています。

伊豆のわさび田は、「静岡水わさびの伝統栽培」として平成30年世界農業遺産に認定されました。こうした豊富な地域資源に多彩なアイデアを加えることで、新しい特産品が誕生。生産と加工、流通販売などさまざまな産業に携わる人たちが協力して、まちの新たな魅力を創出しています。

たくさんの味覚にあふれた アイデアいっぱいの特産品



産業

INDUSTRY



バラの美しさが
真近に感じられて
最高！



河津バガテル公園

「河津ならではの」の自然と人を



カーネーションの栽培

**まちと人が一体となって
河津の活性化が生み出される**

「里山」の体験やカーネーションなどの栽培に触れてもらうグリーンツーリズムも、自然を活かした新たな観光産業として期待されています。

こうした河津の貴重な地域資源をベースに、地元を愛する人たちの思いが加わり、まちの新たな魅力の創出につながっているのです。

まちと人が一体となって、河津を支える産業の活性化が生み出される好循環。それは「人が集まり、動く」ための原動力となり、町民自身が動き出すことで創り出されるものです。

これからも町と住民が力を合わせ、河津の産業を育てていく取り組みを進化させていきます。

活かしたスポットの数々



河津バガテル公園
マスコットキャラクター
ガッテルくん

**多彩な自然に価値を
創り出す取り組み**

山、海、川などの自然が自慢の河津町。わが町ならではの貴重な環境は、観光スポットとして広く注目され、地域の産業を支えています。さらに、「河津ならではの」の魅力に、それを最もよく知る「地元の人」のアイデアを加え、新たな価値を創り出す取り組みもあります。

大地の神秘と恵みを体験できる「伊豆半島ジオパーク」や豊富に湧き出る多彩な河津温泉郷などが多くの観光客を集めるとともに、天城の自然の息吹が感じられる涼やかな風が吹き抜け、夏でも楽しめる踊子歩道と河津七滝は、伊豆半島ジオパークのスポットとしても親しまれています。新たなスポットとして人気の遊歩道には、三段滝へ続く佐ヶ野川沿いの佐ヶ野川遊歩道もあります。

また、1100品種6000本のバラが咲き誇る「河津バガテル公園」は、開園から17年。大輪に育ったバラが薫る公園は、多くの人に親しまれる人気の場所になりました。

平成26年10月、見高浜に「舟戸の番屋」がオープン。河津の魅力のひとつである海を活かした体験型施設として親しまれています。

毎年、県外からの修学旅行生が利用するなど、新鮮な海の幸のバーベキューや塩作り、みかんジャム作りなどが楽しめる施設となっています。



七滝にかかる河津踊子滝見橋

生活



多くの町民に親しまれている
「河津町立文化の家図書館」

住みやすさを実現



幼稚園と小中学校に設置されている
「緊急地震速報受信機」

生活基盤の整備によって



地域おこし協力隊による
定住促進の取り組みも実施

安心して暮らせる 生活基盤の整備を進めます

私たちの生活を取りまく環境には、土地・河川・橋梁・海岸・道路などの生活基盤整備から、各種の住環境整備、資源の活用など多彩な側面があります。水道事業は、将来において持続可能で安定した給水のための計画を立て、老朽化した設備や施設の更新を行っています。温泉の集中管理による給湯事業は、平成28年4月から15年間の二次給湯事業が始まりました。今後も安定した給湯ができるよう、施設や設備の状況に応じたメンテナンスや点検によって維持管理していきます。

また、エコクリンセンター・東河の延命化を東伊豆町との一部事務組合により進めています。

一方、南海トラフ地震や津波対策、減災対策などの取り組みとして、同報無線デジタル化やJアラート受信機交換、幼小中学校への緊急地震速報受信機の設置、防災ガイドブックの更新などを実施し、効果的な防災・減災対策を進めていきます。

利便性の高い施設として、「河津町立文化の家図書館」や「河津町B&G海洋センター」などが親しまれ利用されています。平日、休日を問わず多くの人たちが訪れ、市民の交流の場所としても活用されています。こうした余暇を有意義に過ごすための施設の充実にもいっそう力を入れていきます。



河津町B&G海洋センター体育館

将来へ向けた 生活基盤を積極的に整備

現在、「伊豆縦貫自動車道」の工事が進められています。昭和62年に計画が始まったこの道路は、沼津から下田に至る延長約60キロの高規格幹線道路で、現在は函南町までの環状道路が開通しています。平成30年度中には「天城北道路」が、伊豆市矢熊の天城湯ヶ島IC(仮称)まで開通する予定です。

天城峠の伊豆市から河津町までの区間もルート帯が決まり、完成後は、町の産業経済や救急・防災面にとって重要な路線として期待されます。加えて、河津・下田間の2期区間6.8キロでは「河津トンネル(仮称)」の工事も順調に進行しています。

一方、地域おこし協力隊による移住・定住の取り組みも始まり、NPO法人「伊豆の田舎暮らし夢支援センター」と連携し、定住促進の取り組みも行われています。

新たな主要幹線道路の整備によって、住民の生活動線が快適になると同時に、移住・定住や観光産業などへも大きく寄与するものと期待されます。道路をはじめとした生活基盤の積極的な整備を進め、より快適で利便性の高い環境を整えていきます。



工事が進む「河津トンネル(仮称)」(逆川)

行政と議会



写真中央 岸 重宏町長
左 土屋 晴弥副町長 右 鈴木 基教育長



河津町議会議員

町民の意見を行政に反映させ 開かれた議会運営を目指していきます

河津町では、住民と行政の総意による政策決定に努め、町民参加のまちづくりを目指しています。

住民の一人ひとりと行政とが、常に意識と目線を共有することを大切に、さまざまな課題に対して住民の声が直接届けられるよう、町政を推進していきます。何よりも、河津町ならではの豊富な自然と誇れる歴史や伝統をもとに、町民

参加のまちづくりを推進しています。

河津町議会は、町民の代表である定数11人の町議会議員で構成されています。年間を通じ4回の定例会と必要に応じて開催される臨時会では、町全体の取り組み方針や課題解決について活発な議論が展開されています。

町民の意見を行政に反映させるとともに、行政のチェック機能としてあらゆる面で開かれた議会運営を目指していきます。



役場庁舎

姉妹都市 長野県・白馬村

長野県の北西部に
位置する人口
約9000人の白馬村。

昭和57年7月、河津町は長野県白馬村と姉妹都市の提携を結びました。
平成10年の長野オリンピック・パラリンピックでは、スキートのアルペン・ジャンプ・クロスカントリ・ノルディック複合の開催地となり、世界に「Hakuba」の名前が知られました。また、上村愛子さんや渡部暁斗選手など、多くのオリンピック選手を輩出しています。



ジャパウ (Japan Powder Snow)

写真提供：白馬村

近年は、国内最大級のスキー場とパウダースノーを目的に海外からの観光客が増加しており、国内外からの移住者も増えています。
冬季に限らず、登山やアウトドア・アクティビティなど、グリーンシーズンも楽しみがたくさん！世界水準の国際山岳観光地を目指して、官民一体となって地域資源を活用した魅力ある村づくりを進めています。
美しい景観、多様なアクティビティ、美味しい食べ物、温かいおもてなしと、四季を通じて「来て」「観て」「食べて」、姉妹都市白馬村を体感してみませんか。



八方池

写真提供：白馬村

防災協定 東京都・渋谷区

人・モノ・情報などを通じて
相互に助け合えるよう
連携を図っています。



渋谷・代官山方面を望む

写真提供：渋谷区



2020東京オリンピック・パラリンピックに向け
再開発が進む渋谷駅周辺

写真提供：渋谷区

地震など大規模な災害で被災した場合に備えて、平成16年11月、河津町は東京都渋谷区と「災害時における相互応援に関する協定」(防災協定)を締結しました。
この協定は、大規模な災害が発生し、独自では十分な応急措置ができない場合に、職員の派遣や食糧・日用品・その他必要な資機材の提供、被災者の受け入れなど、幅広い応急対策及び応急復旧対策を実施するほか、防災訓練時の応急救援物資の搬送など災害時の実効性を高めるための対策を行います。
また、渋谷区で開催される「渋谷くみんの広場」に河津町が出店し、町の特産物の販売や観光PRを行っています。渋谷区からは、町内の渋谷区保養施設「河津さくらの里しづや」に多くの区民が訪れています。
防災協定を機に、さまざまな交流が始まり、人・モノ・情報などを通じて相互に助け合えるよう連携を図っています。



発行／静岡県河津町

〒413-0595 静岡県賀茂郡河津町田中212番地の2

電話 0558-34-1111(代表)

<http://www.town.kawazu.shizuoka.jp/>

発行日／平成30年9月

編集／河津町企画調整課

制作／株式会社ぎょうせい